

お知らせ

第33回Neesima Room企画展

よみがえる クラーク記念館

〈期間〉2008年4月1日(火)~7月31日(木)
〈時間〉10:00~17:00 (土・日曜日は16:00まで)
〈会場〉Neesima Room
(同志社大学今出川キャンパス・ハリス理化学館2階)
〈閉室日〉祝祭日、4月29日(火)~5月6日(火)



公開講演会 | クラーク記念館からのメッセージ

—5年間の修復工事を終えて—

日時: 5月17日(土) 13:30~14:30

場所: クラーク記念館2階 クラーク・チャペル (同志社大学今出川キャンパス)

講師: 鶴岡典慶氏 (京都府教育庁指導部文化財保護課 文化財専門技術員)

〈お問い合わせ先〉同志社社史資料センター

Tel. 075-251-3042

E-mail: ji-shasi@mail.doshisha.ac.jp

『同志社時報』ご購読について

より多くの方々にご愛読いただくために、118号(2004年10月発行)から購読料が無料になりました。送料(1冊につき切手200円)のみのご負担で定期購読いただけます。

●定期送付のお申し込みについて

『同志社時報』は、4月、10月の年2回発行しています。新規・継続の定期送付をご希望の場合は、巻末はがき、電話、FAXまたはe-mailで大学広報課までご連絡ください。ご連絡をいただき次第、「申込み用紙」を送付いたします。「申込み用紙」到着後、必要事項をご記入いただきご希望号までの送料(切手)を添えてお申し込みください。

●バックナンバーのお申し込みについて

下記まで必要経費分(購読料+送料)の切手を添えてお申し込みください。
〈購読料〉1号~51号 100円 52号~78号 150円 79号~117号 200円 118号~ 無料
〈在庫切れ〉29号、52号、54号、56号、71号、79号、91号、95号、119号
〈送料〉1冊につき200円

●ご意見・ご感想をお聞かせください

ご意見・ご感想は、誌面に掲載させていただく場合があります。掲載させていただいた場合、記念品(薄謝)をお送りします。巻末のはがき、お手紙、eメール等でお寄せください。

同志社大学広報課 同志社時報係

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

電話 075(251)3120 FAX 075(251)3080

e-mail: ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

読者のお便りから

○同志社での幸せ一杯の青春時代を感謝しています。どんな境遇にあってもその頃に得たものに思いをはせ、活力をもらって今日まで生かされてまいりました。生きていく間、地の塩、世の光としての同志社の存在を祈りつつ愛読させていただきます。

(広島県庄原市 松山民子)

○いつも同志社時報をお送りくださりありがとうございます。124号を受け取りその中で同志社人物誌を大変興味深く読みました。宮澤正典先生の史実に忠実にそれでいて高鳳京ソウル女子大学初代学長への尊敬の気持ちが文面からひしひしと迫ってくるものがあります。小生30年間韓国経済界との繋がりを持ち、数多くの同志社同窓生と関係を持ちましたがその人々がこの高博士に対して敬愛の情が誠に絶大なものでした。仕事仲間であり友人の獨孤英勲社長(ソウル明洞教会長老)からは、大韓民国の苦難の歴史とその上に出来上がった今日の繁栄を何回

となく聞かされ全く同情するものであります。

正しく高博士の生涯に捧げられた人生と一致し、ソウル女子大学の今日の勇姿を見るにつけ、改めて高博士への敬服の念を高めました。文中の湯浅八郎先生の第23号同志社時報を読み返してみますに、その中では、朴クァーター後、日が浅い中のソウルの状況が見てとれます。まだ安定した治世が行われていないのか京城と呼ぶかソウルと呼ぶのか迷っておられる御様子が感じとれます。しかしその中で、述べられているこの女子大学の七つの特色、これは半世紀経っても変わらぬ教育の原点と思います。

小生もこの素晴らしい教育者が同志社の卒業生であられることが誇りであり光榮であります。また、女専卒業の翌年に書かれた一文を遅まきながらこれからの人生の生き方にしたいと願っています。

(高槻市 沖本秀雄)

○京都を訪れ、はじめて同志社大学の新島旧邸及びハリス理化学館を見学しました。特に赤レンガで統一された学舎には驚きました。その折、同志社時報を手に入りました。内容豊富。毎回継続して読ん

でみたくなるような、まさに志を同じくする人には最高の雑誌と感じました。

(三鷹市 熊谷勝昌)

○多くの方々のお力で素晴らしい同志社時報を拝読しています。特に表紙の校舎スケッチは懐かしい風景で心に染みま

す。現在の様子を知る上で、同志社タイムス、One Purpose、同志社時報等は私にとつて唯一の情報手段なのです。益々のご発展を祈っています。

(枚方市 西元俊雄)

○長い間読ませていただいています。若き日を思い出すすがとしております。同志社大学の発展と充実を祈ります。今後も読み続けたいと思います。

(植月 徹)